



定額一冊金 一ヶ月五拾圓 郵費五圓
 廣告料五拾圓 印刷費一圓 行金五拾圓
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐炭田新報社
 電話 六三三番
 印刷所 常磐炭田印刷局
 電話 六三三番

片寄平藏

山口彌一郎

常磐炭田の開発と

六、常磐炭田の開発
 大越基六
 加納作平の採炭
 大越基六氏は内郷村字白水の庄屋で片寄平藏氏が白水村に彌勒澤に炭層發見の節その採掘許可を湯長谷藩主に願ひ出る等種々炭田開發に盡力したが平藏の採炭業が成功するに及んで當時地方民として採炭業を省り見なかつたが特に自らも藩侯に願ひ出て彌勒澤の一部を採掘した。次第佐助が續ぐに及び明治初年には相當手廣く始めたが鑛區を東京の兩食録助氏賣却の件に就いて明治二十三四年と大訴訟事件起り遂に殆んど財産を失つて採炭業より手を引く様になつた。

湯長谷藩の金融等をしてゐた御用商人功納作平氏も同じ湯長谷藩侯より彌勒澤の鑛區の一部を借り受けて採炭に従事した作平氏は天保二年泉澤吉田家に生れたが嘉永三年頃湯長谷藩字下湯長谷村字町下九九番地の加納家の養子になるに及び加納家の酒造、質、魚問屋

材木、米穀等に至る手廣い家業を繼ぎ藩侯の御用商人として働き、平藏氏の採掘した彌勒澤の一部を採掘した。當時平藏の採掘した石炭の俵には赤印を附し、作平の俵には黒印を附したので赤星、黒星と言ふ略稱が用ひられてゐた。明治四年二月露國汽船が燃料に窮して小名濱に不時寄港し石炭の賣渡しを乞うた。當時作平氏は石炭取締役をしてゐたので藩侯に願ひ一五〇〇俵を三十俵に就き價格十圓の割合で賣却した之れは常磐炭を小名濱に於て直接汽船に積込んだ嚆矢である。

2 明治十年後の財伐の投資
 常磐炭田の眞價を發揮して飛躍したのは明治十年以後で、當時東京附近の文化地帯に於ける燃料炭は凡て九州に供給を仰いでゐたが偶々西南役に際して九州炭の輸送が杜絶し、俄かにぬん料の缺乏を來し、事業休止の己むなきに陥るものが出來るに及び中央財伐が近郊炭田の必要にせまられ常磐炭田の開發が企圖された。石城郡好間村字下好間の遠藤致氏は最初平藏主安藤

公の侍醫であつたが後内務省の官吏になり中央に活躍してゐる際、常磐炭田開發の議が起り淺野總一郎、澁澤榮一、渡邊治右衛門等と謀り、先づ技師を派遣し、種々調査の結果、常磐炭田の有望なるを知つて明治十六年磐城炭礦社を越し小野田炭坑を開いた。

これが常磐炭田に於て洋式動力を使用して採掘を開始した最初である。同二〇

- 【朝】 味噌汁—葱
- 【晝】 揚物—野菜 鮮魚
- 【晚】 鰻御飯 流し玉子 三つ葉清汁

年小野田小名濱間の輕便鐵道開通し馬背にのみ依つてゐた石炭運輸が軌道に依つて小名濱港へ搬出し得る様になつた。同二十六年磐城炭礦社は資本金四十萬圓を蒐集して株式組織とし磐城炭礦株式會社とし小野田に於て翌年當炭田最初の堅坑の開港をみるに至つた。

小役員數名募集
 年齢十五才ヨリ
 優遇
 御希望ノ方ハ午後一時ヨリ本人御來談下サイ
 平町田町一七
 レストランサロン
 電話三五二番

ランドセル

手提カバン

◇小學生用靴各種◇

総皮ランドセル大型 ¥.80
 // 極大型 ¥.90
 牛皮特選ランドセル ¥.300

ツルヤ

平・四 電一四〇

外科

門專光X

上田外科醫院

平町南町
 電話一二九番

魚清食堂部

電話六三三番

募集廣告

店員 徒弟 五名
 資格 (年齢—拾三才より拾六才迄 學歴—尋常科卒業又は以上の事 優待方法—家族制度の外特別優待方法あり)

徒弟 拾名
 ◎家具職として合理的製作方法を望む人
 資格 (年齢—拾三才より拾六才迄 學歴—尋常科卒業又は以上の事 修業後の收入—ヶ月金五拾圓以上百圓位)
 ◎御希望者は至急御面談又は御問合せを乞ふ

和洋家具 製作販賣 (本) 丸ほん商店
 設計請負 製作所 平町新田前 電話一八二番

看護婦急派

の求めに應じます

平町南町
 平看護婦會

来る 二十五日より

大特賣

星野時計店

可愛御子様の卒業御慶び、御入學の記念には是非………プレゼントとして喜ばれる星野の時計をおすすめ致します。

天守焼肉

平町田町通電話六五六番

生徒募集

文部大臣認可 藤田女學校

- 本科一年 ○裁縫專修科一年
- 專攻科 ○師範科
- 本科二年 ○裁縫專修科二年編入

願書受附 三月末日限り
 詳細 本校宛問合せの事
 位置 福島縣平町田町
 電話三二八番

警中卒業式

洋々たる前途に

邁進せよと知事の告辭

既報警中第三十四回卒業證書授與式は本日午前十時より同校講堂に於て舉行知事代理として今江社會課長臨席、小檜山校長の訓辭、畑山知事の告辭、青沼町長其他來賓及び關内同窓會長祝辭、在學生總代四年山崎研治君の送辭、卒業生二百十六名の總代高萩實君の答辭あつて十一時半閉式したが來賓として前代議士木村清治氏外三十餘名であつた因に知事の告辭は左の如くである

涵養し工夫創造に刻苦勉勵とを以て各自の本分を完ふし國力の充實を圖ると共に正義と人道とを以て眞の人類福祉の爲めに貢献するの意氣なかるべからず諸氏は既に高等普通教育の課程を了へたり是を以て國家が諸子に期待する所實に重大なるものありされば出で直に社會の實務に就く者も進んで上級の學校に學ばんとする者も須く帝國の現狀に鑑み其の將來を思ひ健全有爲なる中堅國民たらん事を念とし今後修養鍊磨を怠る事なく以て雷に本校卒業生としての体面を傷けざるのみならず、いんば本校教育の眞價を發揚するの覺悟あるを要す

希くは諸氏自己の適する所を選び一層健康を増し潑刺たる氣魄を以て洋々たる前途に向つて邁進せられん事を一言素懷を述べて告辭とす

平町各種團體

町費補助額

平町各種團體に對する昭和九年度の町費補助は五日の豫算町會に於て總額千八百七十五圓と決定左の如く九團體へ補助することになつたが平商工會に對する四百十圓の補助金はその中から建具指物組合と染物業組合へ各八十圓宛交付すること指定された

一家から 軍人三名

陸軍省表彰

郡下各町村で三名の軍人を出した家庭の表彰は今回陸軍省より左記四十五氏と發表された

- △平町教育會七十五圓△平青年團四百圓△平女子青年團百八十圓△平町婦人會正十圓△警城訓官院二百五十圓△平町農會百六十圓△平商立會四百十圓△石城神職會五十圓△在郷軍人平分會三百圓
- 警崎豫算村會 警崎村では七日午後一時から村會の實務に就く者も進んで上級の學校に學ばんとする者も須く帝國の現狀に鑑み其の將來を思ひ健全有爲なる中堅國民たらん事を念とし今後修養鍊磨を怠る事なく以て雷に本校卒業生としての体面を傷けざるのみならず、いんば本校教育の眞價を發揚するの覺悟あるを要す

日嗣の皇子の御誕生を壽く

郡下小學校の記念事業

- △小名濱 備品購入
- △水戸校 四月より高等科 女子補習校の新設
- △合戸校 設備品購入
- △内郷第二校 職員旅行會を作り俸給の二分を毎月貯金し適時旅行をなす
- △豊間校 歌を新作すべく中央作詩家に依頼すべく作家選定中
- △内郷 ビアノ購入

滿洲國から返電

第三方面青年團長宛に

既報石城聯合青年團第三方面青年團では過般總會の決議に基き滿洲國宮内府大臣陳瑞麟氏に祝電を打つたが昨日午後會長篠山廉氏宛左の如き町重なる返電があつた熱誠なる祝辭を拜受し謹て謝意を表す

美酒品評

佐藤技手來郡

石城酒造組合の美酒品評會は来る十八日から二日間平

錦村々道 竣工検査

工費一萬圓を以つて昨十二月以來修理中であつた錦村々道は此程改修全く成り八日小林平土木監督所長が出張竣功検査を行ふと

警中將校昇進

配屬將校陸軍少佐大井川八郎氏は此程中佐に昇進され

駒場氏大尉に

平商業學校配屬將校陸軍工兵中尉駒場繡氏は去る五日附で陸軍工兵大尉に任ぜられた

第一職員足球

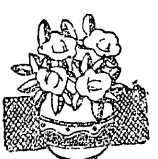
平第一小學校職員一同は本日運動日に當るので午後二時よりフットベースボールを行つた

平町人事

回出生

△田町四五 當時千葉縣夷陽郡西畑村字平野小川勇夫氏三男明夫
△白銀町二七當時香川縣中多度郡多度津町松本秀樹氏長女祝子

美しい花の種子



毎度御好評をいただき居ます 横濱植檢社の輸出向き特撰種子です「草花種子の蒔き方」差上ります

西村屋藥局種子部 平2電3

新車御披露

三十四年式「デラックス、セダン」入車致しました。貸切の御用の節は是非御試乗を御願ひ致します。

電話六四〇番

屋子タクシー

最新型セダン揃ました

登記を怠つて

村對地主が悶着

一旦買収した磐崎村道に

卅餘年間税金を課せられ

磐崎村では遠く明治三十年村道開鑿するに當り數名の地主から畑地を買収したに拘らず其後

賣買の登記手續を踏まなかつたため爾來本年一月まで畑租として地主が税金を納付せられてゐたことを計らずも發見大井川文平外數氏の地主は今迄村の所有に歸した

村道に對して税金を負担せしめられたるは村當局の登記を怠つた結果であるとして怠慢を責めて騒ぎたて今迄の納付した税金は村税と差引けといきまいて物議を醸してゐるが

地主側も餘りにツカツな点があつたらしく地方の話題を賑してゐる

朝夕の寒さに

水道が故障

昨日は廿四件

記録破りて修理大繁忙

三日に入つてからの平町地方の氣温は日中が温暖であるだけ朝夕の寒氣が殊の外酷しく感じられ毎朝の水道の凍結は炊事に忙がしい家庭の主婦や女中さん達を狼狽させてゐるが昨六日朝に寒氣のため水道配水管の龜裂蛇口の破裂を水道部に訴へ出たもの二十四件あり水道部員總出動で修理に大繁忙を來した一日に二十四件の破裂は近年にないレコードとして部員も驚いてゐる

浴客盗難

時計と現金

磐崎村白鳥鑛泉春木屋方に滞在中の東京淀橋區南角谷石炭商若松學氏は昨六日朝八時頃入浴中自室に置いた金側懷中時計及びプラチナ鎖付(時價二百圓)と現金廿五圓入り財布を何者かに窃盗されたので届出により平

署刑事が出張目下犯人嚴探中
第一校送別會 平第一小學校では來る二十日午

野外演習を兼ね

野兎狩りの壯舉

平町在郷軍人分會が

陸軍記念日の催し

平町在郷軍人分會では來る三月十日の陸軍記念日に際し鹿島玉川方面の野兎群棲する山地に於て野外演習を兼ねて野兎狩りを行ひ山上に於て記念式典を舉行終つて玉川村小瀧鑛泉で捕獲した兎料理に舌鼓みを打ち席上、三浦上等兵以下四名の

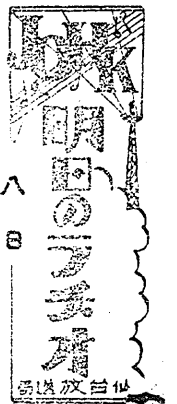
洋服姿に頬かむり

神谷村の一異風景

インテリ連が繩なひ競技

腕次第で御褒美

神谷村農會主催の神谷小學校教員及び役場吏員石城農試分場員の繩なひ競技會は七日午後三時から同村小學校に於て催されるが優勝者には賞品を授與終つて懇親



今晚の部
後六、〇〇 子供の時間
お話 杭工學博士 金森誠之
後八、〇〇 京城より中繼
伽偶琴散調金恩子長唄京

今晩の部
後六、〇〇 子供の時間
お話 杭工學博士 金森誠之
後八、〇〇 京城より中繼
伽偶琴散調金恩子長唄京

城四季の遊
後九、〇〇 新内「葎屋童
滿大内鑑葛の葉子別れの
段」富士松喜遊
後九、三〇 時報 ニュー
ス 氣象通報 番組豫告

圖々しい

モヒ患者

平町役場へ本日午前八時頃から押掛けた東京市深川區古石場町二二田中勇(三)栃木縣足利郡筑波生れ駒井登(三)の二名のモヒ中毒患者はモルヒネが切れて徒行が出來ぬと施藥方を願出たので藥代二圓五十錢を與へた處一旦立去つた兩名は圖々しくも正午頃再び役場に現はれ今度は晝食代をと願出が係員に怒鳴られて澁々引きさがつた

裁判所たより

▲上遠野村大字深山田字三ノ田一五農北郷庄松(三)同村大字大平字皿貝木挽井坂菊三郎(三)同所字鷹ノ巢磯引森内郁郎(三)同所字富岡七農馬立上徳太郎(三)同所字平城四八同高橋玉喜(三)同所字寺代同井坂義輝(三)同所字入定同佐藤浩(三)の七名は去る一月十二日同村大字寺代の杉林中に於て丁半賭博を開帳清は罰金四十圓他は全部科料十五圓宛に本日各平區裁判所に於て路式

明日の部
前七、〇〇 基礎獨語講座
(二十五) 橋本忠夫
前九、一〇 料理献立 清川肉片
前一〇、三〇 家庭講座
「外人の家庭で用ひられる
簡單で經濟な洋食に就て」
後〇、〇五 箏曲 一、都の
春二、勿來の關
後二、〇〇 家庭大學講座
「病人と食物」醫學博士

命令を以て處分された
▲既報相馬郡小高町生れ目下住所不定前科十犯無職渡邊次郎(五)が去る一日午後十時頃平南町料理店第一新橋事佐々木熊吉氏方外一ヶ所に於て十九圓餘を無銭飲食した詐欺事件の公判は昨日午後二時より平區裁判所に於て關口判事係より三堀檢事立會の下に開廷事實訊問の上檢事より懲役三年を求刑されたが判事より即決懲役三年を言渡された

平職業紹介所報告

回人を求める方
△炊事婦 廿五以上 日給四十錢以上
△雑役 二十前後 月十圓
外面談
△配達 十六才 尋卒 仕着外四圓
回職を求める方
△小使 二十五才 高卒
給料面談
△事務員 二十才 中卒
給料面談
△給仕 十五才 高卒 給料面談

佐々廉平
後五、〇〇 法律講座
後六、〇〇 子供の時間
管絃樂 一、行進曲「勇氣」
二、歌劇三、安南王の行列四、行進曲「大湖船」
東京ラヂオオケストラ
BK編成の夕
後七、三〇 人形浄るり
文樂座より中繼「和田合
戦女舞鶴」竹本土佐太夫
後八、五〇 浪花節

△看護婦見習 十六才 高卒 給料面談
△交換手 十六才 高卒 給料面談

美味! 芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

市原醫院

平町 田町
電話一四番

銘劍秘笈

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第百七十四回 德川家に崇る村正

兩夫にまみえぬ

いくら大の男が三人でも
死物狂ひに暴れる女を芝の
櫻田本郷町から青山七丁目
まで擔いで行けない、そこ
で一挺の辻鴉籠を雇ひ手拭
で口を結へて扱帯で手足を
縛り鴉籠に乗せると横澤、
本多、白旗の三人が鴉籠脇
に附添つて水上の道場まで
歸つて来た、下駄屋の若い
者の定吉といふ男が、とに
かく主人の行先だけはたし
かめやうと其後から見を隠
れに尾いて行つたが、道場
へ這入つて終つた跡はどう
する事も出来ない、消然と
して主人の家へ歸つて行つ
た、此方は水上五太夫、戀
焦れてゐた女の居處が知れ
て、門人達が迎ひに行つた
といふので、忽ち病氣全快
髪を剃るやら髪を結ふやら
して、鶴の様に首を長くし
て待つてゐる處へ、三人が
女を連れて来た、早速玄關
まで出迎へて



かごの中で半ば氣を失つ
てゐるおみつを引き出し、
二人で奥へ運んで来る
五「早く手足を解いて介抱
してやれ」
口の手拭を取り手足の縛

五「イヤ各々、大きにご苦
勞だつた定めし骨折りだつ
たらう、どうした彼の婦人
は……ナニ鴉籠の中か、サ
ア、早く出しておやんな
さい、何だ、縛めて、それ
可哀想にコレ」

めを解いて茶碗へ水を吸つ
て来て飲ましてやる、漸く
生氣に返つたおみつが見る
と前には水上五太夫が、ニ
ヤリ／＼と笑つてゐる慌て
座り直したおみつが
み「歸して下さい、お願い

でございませうどうか私の家
にお歸しなすつて下さい」
と兩手を合はして拜むの
を、傍から横澤國之助が
横「マア、静かにしろコ
レ女、能く聞け、前にお出
でなされる方は我々の先生だ
が、元は立派な旗本、仔細
あつて今は此處で劍術の道
場を開いてお出でになるが
門人衆も澤山あり、金も澤
山持つてお在なされる、貴
様は下駄屋の女房だが容色
の好いのが幸ひで大層先生
のお氣に入り、何でも奥に
迎へたいと仰言る、其處で
我々三人がお前を迎へに行
つた譯だが、今日から下駄

五「そうか何と申してもウ
ンと言はぬか」
横「先生仲々この女は強情
で、一筋縄ではいきません
な」
五「宜し、この上は據らな
い、ソレ荒縄で縛り上げ、
庭の松の木へくくり附けな
さいウンと申すまで折檻し
てくれるは」
情、容赦もなく三人の門
弟、荒縄でおみつを縛り上
げ、庭へ引きずり下ろして
松の木へくくり附けました

五「イヤ却々町人の女房と
しては物を心得て居る、益
々五太夫氣に入つた亭主は
亭主で不自由なら又他の女
を迎へるだらう、子供は其
の女が育てる餘計な心配は
せず、己れの出世を心掛け
ろ」
五「何と仰言いましたもお
言葉には従ひ兼ねます」

五「そうか何と申してもウ
ンと言はぬか」
横「先生仲々この女は強情
で、一筋縄ではいきません
な」
五「宜し、この上は據らな
い、ソレ荒縄で縛り上げ、
庭の松の木へくくり附けな
さいウンと申すまで折檻し
てくれるは」
情、容赦もなく三人の門
弟、荒縄でおみつを縛り上
げ、庭へ引きずり下ろして
松の木へくくり附けました

木村外科専門醫院

平町六丁目 橋目 電話 三〇九

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電話六三〇番
申込次第規則書進呈

五「そうか何と申してもウ
ンと言はぬか」
横「先生仲々この女は強情
で、一筋縄ではいきません
な」
五「宜し、この上は據らな
い、ソレ荒縄で縛り上げ、
庭の松の木へくくり附けな
さいウンと申すまで折檻し
てくれるは」
情、容赦もなく三人の門
弟、荒縄でおみつを縛り上
げ、庭へ引きずり下ろして
松の木へくくり附けました

丹波博士創製セキドメ
たんばあめ
子宮病、根切薬、下腹や
腰の痛みをなほす事妙な
る
うまくてセキがヨクトマ
ル
ユビハレ、ヤケド、キリ
キズ、淋病、梅毒、乳ハ
レ、すべて化膿したもの
を切らずに癒る

平町古鍛冶町一〇
阿康薬舗
縣社ノ下 電話四四番

米國製劑皮膚病良薬
レメドール
ヒビ、シモヤケ、ハタケ
ヤケド、キリキズ、タム
シ
子宮病、根切薬、下腹や
腰の痛みをなほす事妙な
る
うまくてセキがヨクトマ
ル
ユビハレ、ヤケド、キリ
キズ、淋病、梅毒、乳ハ
レ、すべて化膿したもの
を切らずに癒る

平町南町六五
川井内科診療所
電話一八一番
醫學士 川井重之
女醫 川井安子

かまぼこ 製造
お惣菜用
さつま揚
吉原揚
電話一四一番

平町一丁目

専門 内科一般
宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません
電話一四一番